

くらがね通信

No.79 (冬号)

乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

2020年1月15日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

第20回総会・環境講演会

2月29日(土) 高山市民文化会館(2-5)

1. 第20回定時総会 15時40分頃～

2019年の事業及び決算報告、2020年の事業計画及び予算案その他について審議します。

2. 環境講演会 「夏なのにジョウビタキ」

13時10分開場 13時30分開演～15時30分頃まで

講師：宝田延彦さん(日本野鳥の会岐阜・飛驒ブロック)

近年、冬鳥として知られているジョウビタキの繁殖例が高山市街地で春から夏にかけて数多く観察されています。全国的に余り例のないこの現象について最新のデータで迫ります。

年に一度の総会・講演会に是非ご出席ください。

なお総会に出席できない方は同封の**代理人選任届**のご提出をお願いします。

秋の里山こみち石仏探訪

長沢和子

江名子町旧江戸街道。どんな石仏に出逢えるか？歩いてみませんか？の＜アプローチ＞に惹かれ参加しました。案内人の住さん、田口さんの説明を聞きながらキョロキョロの私。

「空き家の多い路地や狭い通り」→「錦橋」→「荏名神社」→「道分灯笼」「石仏群」→「源十郎の墓(渋草焼窯跡)」→「大原騒動、江名子村・孫次郎の墓」→「湯の神様」

●盛り沢山の石仏・史跡に驚く

「不動明王」「地藏菩薩」「馬頭観音」「道祖神」「青面金剛」「薬師如来(薬をもつ如来様)」

●歩きはじめは雲と風に吹かれて「雨降るかな？」と心配していた。熱気ある「おしゃべりパワー」で坂道登る頃には汗びっしょり。青空の下赤とんぼも飛びはじめ、「何かな？」「何だろう？」と木の枝に皆が集まっ



キオビゴマダラエダシャク

ている。皆さん、見つける！探す！大笑いする！不思議な力を持っている。

「さわってごらん！」「動くよ〜」「動いた〜」。尺取り虫（樹皮色）「キオビゴマダラエダシャク」

●あっという間に江名子町旧江戸街道巡りはおしまいです。

●「お腹すいた〜」、「荏名神社でお弁当！」。昼食 & まみさんの手作りデザートいただきます。

雑感1 旧江戸街道の先はどこへ？

江戸へ向かっての最初の宿場町は山口町→美女峠→野麦峠→信濃路→江戸へと続く街道

<探しました・調べました>

※「了心寺」（高札場・美女峠入口）



車で探しましたが、迷いました。ぐるぐる坂道を登ったり下ったり。民家はなくなる、山口町はひろいなあ。

※美女峠の由来は太平洋と日本海の分水嶺で**1峠の上下、2郡上界**の2説あり「ぐじょうげ」と言われ「びじょうげ」から美女峠。意味わからない。伝説も長い間伝えられているから本当かな？昔の人の暮らしの知恵かな？昔話、民話は豊かになる。

雑感2 菊田秋宣さんはどんな人？

<探しました・調べました>

※道分灯笼（旧江戸街道と村道との分岐点にある灯笼）

灯笼の棹石に右図のような道案内の文字の他、狂歌が刻まれている

左	み
江	の
戸	ぶ
ぜん	さん
かう	
じ	
道	

行列の見事乗鞍かさが岳

やりせー高くふれるしら雪

菊田秋宣の作品。飛騨山脈の山名をもじって大名行列に仕立てた。江戸時代には「ハイカラさん」です。



狂歌が刻まれている灯笼

雑感3 江戸街道？

<探しました・調べました>

江戸街道は飛騨と信濃を結び、鎌倉・江戸へと続く道。金森が公道として普請した道。公用の役人の往来、江戸文化の移入、人と物が行き交いながら生活を大きくして行きます。一般の人々の善光寺参りの通り道にもなった。しかし四方を山に囲まれ峠が多く難所もあり山口から始まる急峻な坂道・峠を道にするには村人の犠牲がありました。どんな時代でも、裕福な人貧しい人との格差はあるのかな？

※飛騨春秋、飛騨の峠等参考にしました。



飛騨の峠【その10】

木下喜代男

神坂峠 (標高 930m) — 栃尾から蒲田温泉へ越す小さな峠

峠歩きに適しているのは11月頃だ。この時期は暑くなく、うるさい虫たちもいなくなって、落ち葉を踏んでも雪を冠った飛騨山脈を見ながらの静かな峠歩きが楽しめる。

明治期にウェストンが飛騨山脈付近で越えた峠は、平湯峠、安房峠、中尾峠だが、

もう一つ小さな峠があった。それは栃尾集落を過ぎたところにある神坂集落から蒲田温泉へ越す神坂(かんさか)峠だ。今は下にトンネルが穿たれたためとうに忘れられた峠になっているが、尾根上に常盤木が多かったことから、青木嶺ともいったそうだ。(図1)(写真1)

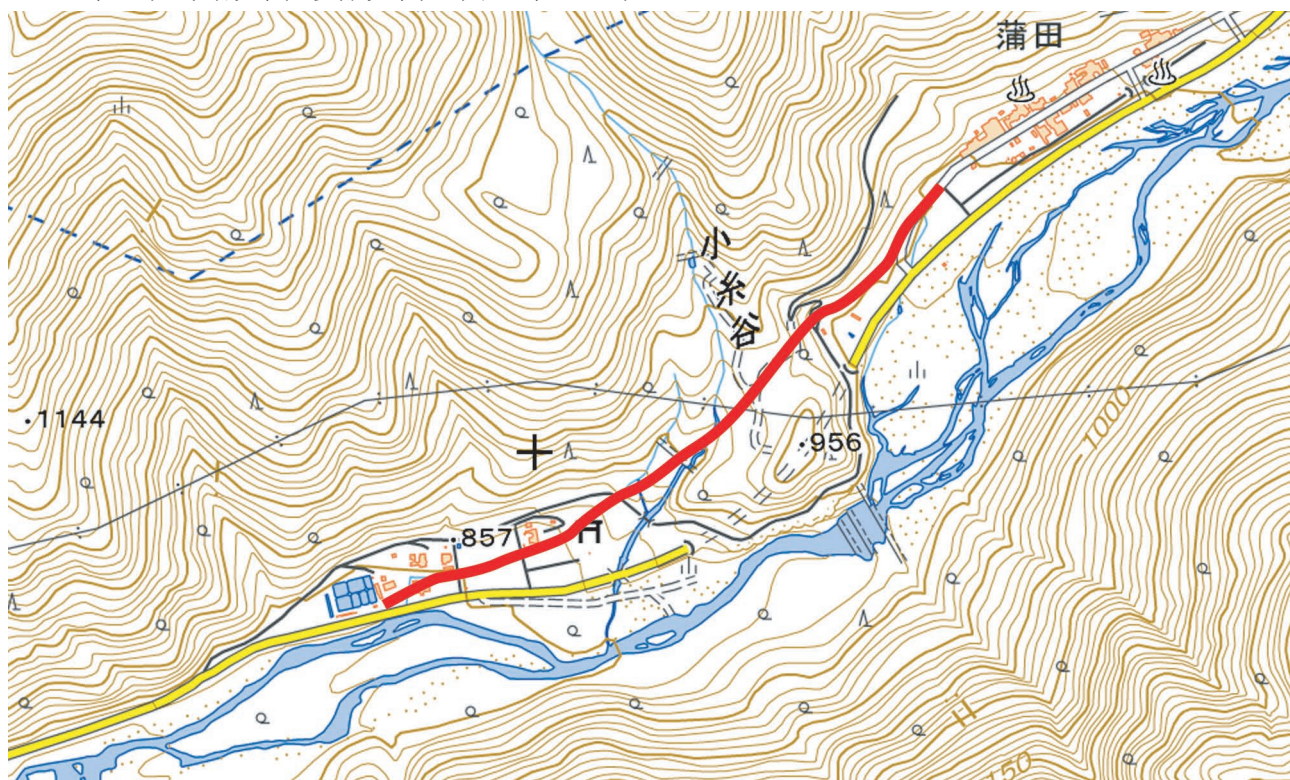




写真 1

なお神坂峠というのは、岐阜県の中津川市など他にもいくつかあるが（深坂峠、三坂峠）、1500年以上前に、大和朝廷が東国平定のため開いた官道上の峠のみにこの名が使われたという。しかしこの峠は、頂上に祠があったことからの命名らしい。

ついでながら、鎌倉街道の脇道であった中尾峠の別名は神坂峠といたらしい。前述の官道であったかも知れず、その名がこの地域の大字になって残っているのだろうか。

ウェストンの著書『日本アルプス一登山と探検』に、念願の笠ヶ岳に登ろうと、明治27年（1894）3度目に蒲田温泉を訪れた時この神坂峠を越える記述がある。

ウェストン一行3名は、信州から安房峠を越えて前夜平湯温泉の与茂三郎宅に宿泊。

「早朝私たちは手足も軽々と、めざす麗峰の灰色の鋸歯の稜線が日の出の光のなかに輝き、来いとさしまねいているのを見ながら、高原川の峡谷を心もはればれと大股に早く下っていった。神坂峠の頂上から蒲田の谷間風景を眺めようと一度休んだだけで、古風な牧人小屋風の家並みの蒲田の部落に着いた。」

この峠が気になって、小春日和の日探索にいった。

まず蒲田側から登って見ることに。トンネルができる前の山腹をまく県道が残っているので、ここを少し歩き、途中から鞍部めがけて入る。

峠道と思われる箇所には未舗装の作業道

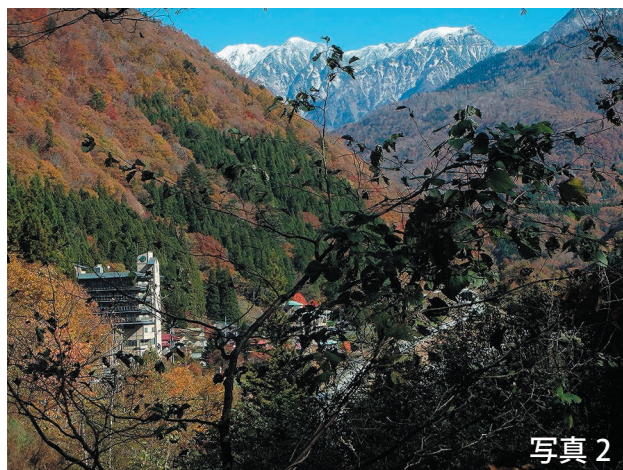


写真 2

がつけられており、峠の下には土捨場らしき広場が造られていて、蒲田側の旧峠道は破壊されていた。

峠もだいぶ以前に土木機械で均されたりして草原になっていたが、ウェストンが書いている通り、ここから蒲田の温泉街が俯瞰できた。（写真2）

反対側を探ると、往時のはっきりとした峠道が残っていたので下って見たが、砂防堰堤で途切れていたの戻る。

往路を蒲田まで下り、再びトンネルを抜けて神坂側へ車を回す。最上流にある家の前の草原に道があったので入って見ると、途中に石仏群（写真3）、さらにその先に地藏堂（写真4・5）があった。土地の人に聞くと、やはり昔ここを峠道が通っていたとのこと。

ウェストンはこの峠を越えたあと蒲田で笠ヶ岳への案内人を求めたが、明治27年、28年、29年の3回とも区長に体よく断られ、3回目は見かねた他集落の猟師が案内



写真 3



写真4



写真5

を買って出てくれた。このため2回は失意のままこの神坂峠を越えて平湯へ戻り、安房峠へ向かっている。

区長が断った理由は、1度目は「最近の豪雨で蒲田川上流がひどく荒れ、今までのルートが崩壊していて猟師で入るものがない」2度目は「このところの日照りで作物が枯れそうになり、猟師は皆雨乞いの旅に出ているのでいない」3度目は「年に一度の祭礼で樵や猟師は忙しく、案内はできない」というものであった。

しかし本当の理由は、笠ヶ岳頂上には江戸期に南斎禅師と播隆上人が安置した阿弥陀如来像などがあるため、異教徒を登らせて仏罰があたることを恐れたためであった。

3度目の明治29年(1896)は、筆者が数年前にウェストンの記述を検証した結果、本峰でなく抜戸岳へ登頂していたことが判った。これは案内役の中尾と栃尾の猟師が、信心深い蒲田の衆の気持ちを忖度したためだと思われる。

念願の笠ヶ岳へ登頂できて満足したウェ

ストーン一行は、その日遅く中尾集落へ帰って猟師宅に宿泊。翌日中尾峠から上高地へ下り、徳本峠を越えて松本へ帰った。

3度(たび)この神坂峠を越えなかったのは、蒲田集落通過時にいざこざが起きるのを避けるためであった。

今思えば、当時は穂高岳同様あの山塊全体を笠ヶ岳と呼んでいたはずだから、この案内は猟師の悪意ではなかった。そしてウェストーンも3回目に本峰は無理だとわかって、小笠ヶ岳(=抜戸岳)で満足したのではなかろうか。

(現地調査日:平成30年11月2日)
初出日本山岳会年報『山岳・No114』を改稿

「さらさら越え」と古安房峠

松崎茂

昨年10月26日の朝日新聞6面に「みちものがたり」という欄があり、佐々成政の「さらさら越え」(天正12年:1584年)という記事が載っていた。ごらんになった方もあるだろう。この「さらさら越え」が一体どこなのかというのが記事のテーマだった。

佐々成政が現在の1月に当たる旧暦12月に敢行した山越えが「さらさら越え」で、浜松城の徳川家康に会うため富山城から旅立った。記事によればルートは下記の3つが有力視されている(次ページ参照)。

1. ザラ峠を越えて長野大町へ出る立山ルート
2. 安房峠を越え松本に出る安房峠ルート
3. 越後経由で松本へ南下した糸魚川ルート

2.の安房峠のルートが、まさに前号(78号)の木下氏の「飛驒の峠その9」(古安房峠)と重なるので紹介する。

記者の宮代栄一氏は昨年10月上旬安房峠ルートを訪れた。その記事を以下に抜粋し引用する。

・・・このルートを自ら踏破した服部名誉教授（※）から「峠につながる尾根には古い鎌倉街道がよく残っていた」と取材で聞いていたので平湯温泉から数キロ離れた安房平から標高 2000m の尾根を目指す。富山在住の登山ガイドの川越耕治さんに同行してもらった。歩きやすい沢沿いを選んでひたすら上る・・・中略・・・自分の背より高いクマザザをかきわけ、50 度もある傾斜をよじ登る。苦闘することさらに 1 時間。標高差で計 400m 上ったころ、突然歩きやすい空間に出た。

みると、凹状の細長いくぼみがるで掘り割りのように続いている。古道である

十数分歩くと、崖が崩落して道が途絶えている尾根を望む地点に出た。現在の国道にある峠とは違う、この古い安房峠は地元で「ザレ（峠）」とも呼ばれた。

・・・中略・・・当時成政の領国・越中は秀吉側の前田利家（加賀）と上杉景勝（越後）にはさまれており「成政は短期間に、安全に浜松との間を往復する必要があった」。

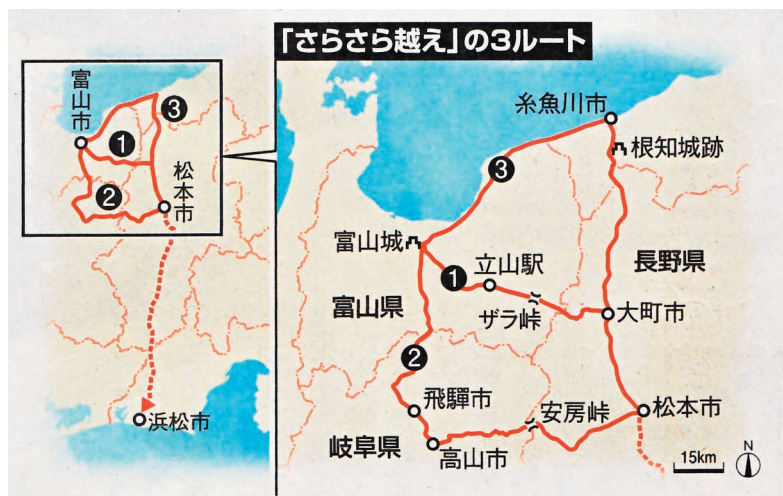
ここで注目されるのが、安房峠を含む飛騨の領主だった三木氏だ。三木氏は越中周辺で唯一成政に近い立場を取っており、安房峠も立山に比べ踏破しやすい・・・以下略・・・

新聞の記事には宮代記者が佐々成政の峠越えを確かめるべく現地を訪ねたことが書かれていた。一方木下さんは三木秀綱やウェストンの 3 度の峠越えに思いを馳せ、実際にご自分が峠を訪ねたものを書かれている。

そして内容からすると両者ともまさに同じ峠にたどりついている。78 号を発行した直後の何ともタイムリーな記事だったのでここに紹介した。

※安房峠ルートは服部英雄九州大学名誉教授（70）が 1997 年に山岳雑誌に発表

朝日新聞 10 月 26 日記事より複写



■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
 あなたの知人、友人に入会をおすすめください
 ・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 79 号 (冬号) 2020 年 1 月 15 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL : 0577-32-7206 ・ FAX : 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail : ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL : 0577-34-4703

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : 山都印刷